

3 学期始業式あいさつ（令和 6 年 1 月 9 日）

新年となった元旦に石川県で最大震度 7 を観測する大規模な地震が発生し、さらに翌日には羽田空港でその救援物資を輸送しようとしていた海上保安庁の航空機が着陸しようとした旅客機と衝突しました。それらの地震や事故により多くの尊い命が失われ、また甚大な被害となり、多くの方が被災されました。亡くなられた方に哀悼の意を表すとともに、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。そしてどうか一日も早く復興されますことをお祈りいたします。

令和 6 年の新しい年を迎え、令和 5 年度も残すところあと 3 ヶ月となりました。3 学期は 3 年生にとっては出雲農林高校の 3 年間の締めくくりであり、高校生活の完成の学期であるとともに、4 月から始まる新しい生活に向けた飛躍の学期です。2 年生、1 年生にとってもこの 1 年間のまとめの学期として、そして 4 月から始まる新年度へ向けての準備の学期として大切な学期ですので、目標を決め、その目標を達成するためにどう取り組むかを考えながら、着実に成長してほしいと思います。

さて、私は一昨年石川県で開催された全国高等学校 PTA 連合会に参加させていただきましたが、ここで（株）ファミリーマート顧問（元社長）の澤田貴司さんの記念講演がありました。澤田さんは、伊藤忠商事、ユニクロでの勤務の実績を買われファミリーマートの社長に就任されたとてもエネルギッシュな方でした。澤田さんが社長をしていた時の「これから社会人となる学生に対してのアドバイス」が印象的だったので紹介します。

まずは、与えられた仕事に対して必死に全力でやりきる。そうしたらその仕事が絶対に好きになる。全力でやりきれない人には絶対次の扉は開かないし、次のチャンスは来ない。その仕事をしっかりやっていたら必ず次のチャンスは来る。「おもしろくないな」という想いでやっていたらその様子でわかる。そんな人に仕事はまかされない。しかし、どんな仕事でも与えたら「ありがとうございます」といって一生懸命やっている姿を見たら、そしてその仕事がある程度できたら「次これやってみて」って与えちゃうでしょ。どんどんどんどん与えるんですよ。だから文句言う前に目の前の仕事にがむしゃらに取り組むことが大事です。やりたいことは、いずれみつかると思いがちだけど、目の前のことを一生懸命にやれば必ず見つかります。

私もその話を聞きなるほどなと感じました。そしてそれから、初めての事に挑戦する時「私には出来ないかもしれない…」そう尻込みすることも多々ありますが、そんな時、私は、自分に問いかけるようにしています。「出来るか、出来ないかじゃない。やるか、やらないか、どっちを選ぶ？」と。

世の中は凄い速さで変化しており、皆さんが就職してからも、これまで自分がやってきた仕事だけ、働き方だけを続けていくだけでは、対応しきれない時代になってきています。

これまでは、自分の担当業務をこなしていれば大丈夫だった、あるいは自分の得意な業務や自分の力を活かせる仕事だけに力を注げば良かった人でも、これからの働き方や世界の変化に合わせて、やったことないことや新しい機械・サービスの導入などに対応しなければいけません。そんな時に多くの人から聞こえてくるのが、こんな言葉ではないでしょうか。

「これまでやったことないから…」とか「私には出来そうもありません…」とか不安が、言葉にも表れています。そんな時、皆さんが思う「凄い人」や「できる人」は、他の人よりも、そのことに対して努力してきた人のことです。

過去の経歴や自分の生い立ち、環境や現在置かれている境遇なんて、本当に些細なことです。これから先、自分が「やってみる」という姿勢を持つことが大事になります。人生を変える唯一の方法、それは、「やってみる。」それに尽きます。高校生の今のうちから実践してみてください。皆さん、今が人生で一番若い瞬間です。今から新しいことに、挑戦してみましよう！

最後に、今年の干支は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長する年だといわれています。新たなことにチャレンジし、自身の成長につながる年となるよう、皆さんの活躍を期待しています。

私は、昭和 39 年の辰年生まれで今年 60 歳、還暦を迎えます。還暦とはもう一度生まれ変わって出直すという意味があります。新たな気持ちで自分を見つめ直す年にしたいです。